

# 令和4年度

## 第1回 学校関係者評価委員会

日時	令和4年9月17日（土） 13:00～14:45 学校関係者評価委員会
会場	放送芸術学院専門学校 2F プレゼンテーションルーム/オンライン（ZOOM）
参加者	学校関係者評価委員会 委員 学校法人コミュニケーションアート 関係職員 *委員名は別紙
議題	進行：山本 <input type="checkbox"/> 法人代表挨拶  <input type="checkbox"/> 委員ご紹介  <input type="checkbox"/> 令和3年度のご報告 ・広報報告／令和4年度入学者・取り組みのご報告  ・教務報告（中途退学者数・産学連携の取り組みなど）  ・キャリアセンター報告（就職／デビュー）  <input type="checkbox"/> 令和3年度自己点検・自己評価及び評価について （点検・評価項目全10項目について報告・別紙）  <input type="checkbox"/> 質疑応答  <input type="checkbox"/> 次回開催、令和5年2月5日（日）（予定）  <input type="checkbox"/> 意見書／自己点検・自己評価について 9月30日（金）までに、郵送または、メールにてご提出お願い致します。 メールの際は、山本宛（ <a href="mailto:yamasato@oas.ac.jp">yamasato@oas.ac.jp</a> ）までお送りください。

学校法人 コミュニケーションアート 放送芸術学院専門学校 学校関係者評価委員会 会議資料

【令和4年9月17日実施】

令和3年度自己点検自己評価(令和3年4月1日～令和4年3月31日)による

学校関係者評価委員氏名【 】

大項目	点検・評価項目	自己評価		点検・評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評価	
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1				優れている…3 適切…2 改善が必要…1	学校関係者評価委員よりの御意見
1 教育理念・目的・育成人材像	1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか	3		<p>学校法人コミュニケーションアート 放送芸術学院専門学校は、滋慶学園グループに属し、「職業人教育を通じて社会に貢献していく」ことをミッション(使命)としている。</p> <p>「3つの教育理念」(「実学教育」「人間教育」「国際教育」)を実践し「4つの信頼」(①業界の信頼 ②高校の先生の信頼 ③学生と保護者の信頼 ④地域の信頼)を得られるように学校運営をしている。</p> <p>教育理念に基づき、放送芸術学院専門学校は、関西の放送業界と共にエンターテインメント業界で即戦力となる人材を育成し、業界に送り出すことを目的として学校運営をしている。</p> <p>開校以来、業界とともに、実践的に人材育成を行う『産学連携教育システム』を教育の柱とした教育システムを中心に実施していることで、即戦力として現場で対応できる人材を育成を実現している。ますます多様化が増す業界に対応するよう、将来的にはさらに業界との連携を強化し、カリキュラムと連動した『産学連携教育システム』により、様々な変化にも対応できる人材の育成を実現していく。</p> <p>また、業界の変化に対応するため、目指す職種によってスペシャリスト人材に加えて、マネジメント力、英語力などを身に付けることのできる3年制・4年制の学科を強化し、業界と共に業界で活躍できる人材育成を行っている。</p>	<p>「学校法人滋慶学園グループ」昭和51年の創立以来、「職業人教育を通じて社会に貢献する」ことをミッションに掲げ、全国に専門学校・教育機関を設置し、業界で即戦力となる人材育成のため、建学時から変わらない「3つの教育理念」(実学教育、人間教育、国際教育)と「4つの信頼」(業界からの信頼、高校の先生からの信頼、学生・保護者からの信頼、地域からの信頼)を実践することで、理想の教育実現を目指す。医療・福祉・美容・調理・製菓・バイオ・スポーツ・クリエイティブ・エコ・音楽・ダンス等、多岐にわたる分野で北海道から福岡まで77校を有する。</p> <p>「実学教育」 スペシャリストが求められる時代に即し、業界に直結した専門学校として、即戦力となる知識技術を教授する。一人一人の個性を活かし、それぞれの業界で力が発揮できるように構築された『滋慶学園グループ独自の教育システム』。</p> <p>「人間教育」 開校以来、『今日も笑顔で挨拶を』を標語に掲げ、他人への思いやりの気持ちやコミュニケーション能力、リーダーシップがとれる対人スキル等を身につけ、同時にプロ・社会人としての身構え、心構え・気構えを養成する。</p> <p>「国際教育」 コミュニケーション言語としての英語を身につけるだけでなく、日本人としてのアイデンティティを確立した上で、広い視野でモノを捉える国際的感性を養う</p>	3	<p>しっかりと理念を掲げて運営され、結果を出されていると感じています。</p>
	1-2 学校の特色は何か						
	1-3 学校の将来構想を抱いているか						
2 学校運営	2-4 運営方針は定められているか	3		<p>諸環境の変化に対応できるように、運営方針を事業計画にまとめている。滋慶学園グループとしては、毎年、長期・中期・短期展望をし、事業計画を作成している。</p> <p>それを受けて、滋慶学園COMグループが短期事業計画を作成するが、そのもとになるのが、滋慶学園COMグループに属する各学校が作成する短期事業計画であり、毎年作成しているこの事業計画書が各学校における運営の核となるものである。事業計画は、法人常務理事会、法人理事会の決議を受け、承認を得ることになっている。それを受け、各学校では毎年3月に事業計画を全教職員へ周知徹底するための研修も行っている。</p> <p>事業計画においては、グループ全体の方針や方向性、組織、各部署における目標や取り組み、職務分掌、各種会議及び研修等々についてが明確に示されている。</p> <p>運営組織は、事業計画の核をなす組織目的、運営方針、実行方針と実行計画に基づいたものである。単年度の運営も、中期計画の視点にたって行われる。事業計画書の組織図には学校に係わる人材が明記され、誰もが全員の組織上の位置づけを理解できるようになっている。</p> <p>学校が重要視していることとして、滋慶学園グループの中期・短期の事業計画に沿って、採用と人材育成を行い、様々な研修において目標達成に向け、スタッフのスキル面とマインド面の向上を図り、また関わるすべての人が学校の方向性、学校の方針の実現に向けて同じ方向を向くために、各種研修や会議、ミーティングにより、コミュニケーションの重要性を確認している。</p> <p>また、滋慶学園グループ共通システムである専門学校基幹業務システム(A Sシステム)により管理・運営している。学生情報や総務管理、財務情報などの管理を行っている。</p>	<p>事業計画書は、広報・教務・就職と、学校におけるすべての部署について考えられ、また、すべての部署が同じ方針・考え方を理解し、徹底している。この事業計画は各部署全スタッフで検討し、それをまとめたものを一年間の実行方針にし、達成目標に向け、全スタッフが運営を行っている。</p> <p>学校全体の運営、あるいは各部署の運営が正しく行われるために、様々な研修や会議が設けられ、この研修、会議を通じて、個人個人の目標設定及び業務への落とし込みを行い、また常に方向性、位置づけ等を確認できるシステムを構築している。</p>	3	<p>校内の設備専門の管理責任者を立てられるのはいかがでしょうか。 特にテレビスタジオの設備管理者が不在のようで、各講師にお任せしている様子。設備全般の管理を仕切れる専門の担当者をおかれることをご検討ください。</p>
	2-5 事業計画は定められているか						
	2-6 運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか						
	2-7 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか						
	2-8 意思決定システムは確立されているか						
2-9 情報システム化等による業務の効率化が図られているか							

<p>3 教育活動</p>	<p>3-10 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか</p> <p>3-11 修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか</p> <p>3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか</p> <p>3-13 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか</p> <p>3-14 キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか</p> <p>3-15 授業評価の実施・評価体制はあるか</p> <p>3-16 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか</p> <p>3-16-17 教員の専門性を向上させる研修を行っているか</p> <p>3-17 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか</p> <p>3-18 資格取得の指導体制はあるか</p>	<p>3</p>	<p>職業教育は常に業界と密接な関連を持たなければ、教育目標、育成人材像は正しく方向づけられないと考えており、業界の動向を常にキャッチし、その変化に対応して養成目的や教育目標の見直しを毎年実施している。</p> <p>本校は教育システムとして、独自の「産学連携教育システム」を構築しており、このシステムにより、業界と乖離することなく、業界で即戦力となりうる人材を育成、輩出できている。</p> <p>教育目標達成のためのカリキュラムは、入学前から卒業まで、体系的に編成されているが、教育部会等で研究、見直し等を行っている。カリキュラムは学科(コース)に関わるもののみならず、社会的・職業的自立を目指す、「キャリア教育」の視点に立ったものになっている。また教育課程編成委員会の各業界を代表する委員の先生方からのご提案、ご意見を取り入れ改善を行っている。</p> <p>授業改善、教職員・講師の資質向上等を目的とし、教育到達レベルの明確化や授業評価、講師会など各種研修・勉強会を実施しているが、これを通して講師や学生の状況を正確に把握し、総合的な判断ができる要因となっている。また、業界の変化に対応しうる必要な教員を確保できるよう努め確保している。またFD研修を教員向けに実施し、グループ校で行われ成果の出ている指導方法などを共有し、本校に取り入れることで教育方法の質の向上を図っている。</p> <p>成績評価・単位認定の基準を明確にし、学生指導を行っているが、明確な基準と共に、すべての学生が学科の目標を達成した上で、進級・卒業できる体制を作っている。</p> <p>資格取得については、現状、エンターテインメント業界では資格がないとできない仕事ではないため、プラスとして資格取得の指導、支援をしており、パソコンスキル検定、映像音響技術処理や色彩検定、メイクアップ検定、ビジネスマナー検定など、業務を行う上で必要な資格、就職に有利な資格という範囲で取得に向け、支援を行っている。また2021年度より、社会の変化に合わせてエンターテインメント業界においてもAIの知識を持った新しい人材を育成するため、Microsoft「AI900」にも取り組み新たな資格を取得できるよう取り組んでいる。</p>	<p>放送芸術学院専門学校では開校以来、教職員の目標として、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 専門就職希望者全員就職</li> <li>2. 退学率0% (入学者は全員卒業してもらう)</li> </ol> <p>を掲げ、その達成のために構築した2つの重要なシステムを構築している。</p> <p>第1のシステムは入学前の自己発見→自己変革→自己確立という、自己3段階教育と、動機づけ・目的意識づけプログラムである。入学前からの一貫した育成システムと目的意識をもって取り組むプログラムの組み合わせにより、モチベーション向上を果たしている。</p> <p>第2のシステムは、即戦力としての実践的技術・知識、ビジネスマインド等を身につけるための教育システム「産学連携教育システム」である。これには、次の5つが挙げられる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①企業プロジェクト</li> <li>②業界研修</li> <li>③海外実学研修</li> <li>④特別ゼミ</li> <li>⑤キャリアセンター・デビュー事務局</li> </ol> <p>である。</p> <p>またエンターテインメント系は教育システムのさらなる開発のため、滋慶学園COMグループのエンターテインメント系全校から構成する「パフォーマンスアート教育部会」を設置し、システムの共有化、レベル向上化を図っている。主な部会内容は、①教育指導法 ②カリキュラム検討 ③生涯教育プログラム ④全国企業プロジェクト ⑤国際教育システム開発 ⑥イベント・卒業・進級制作展の運営 等である。またこれら部会において、グループ校での事例を基に、キャリア教育の強化を行っている。さらにオンライン、オンデマンド教育にもより力を入れキャリア教育の強化を実施している。特にここ数年海外実学研修が実施できていない中、新たな海外プログラムの教育ツールとして定期的な海外プログラムのメニューや内容の充実に向けてアメリカや韓国などの企業と共に連携を行い学生への提供を行って</p>	<p>3</p>	<p>業界の動向に合わせて新たな人材育成を行なっておられ、密に業界と連携を取られ毎年カリキュラムや企業プロジェクトなどに反映されており毎年苦心されていることに関心しております。今後も業界と共に最新の情報を提供できるよう出来る限り協力します。</p>
<p>4 教育成果</p>	<p>4-19 就職率(卒業生就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか</p> <p>4-20 資格取得率の向上が図られているか</p> <p>4-21 退学率の低減が図られているか</p> <p>4-22 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか</p>	<p>2.5</p>	<p>教育成果は目標達成の努力の結果であるが、本校では、専門就職 希望者全員就職、退学者0名を教育成果の最終目標に学校運営を行っている。就職では、開校以来、就職希望者全員就職を達成しているが、コロナ渦の中、それ以前の状況に比べるとまだ求人票数も回復していない分野もあり、卒業式時点での就職率も苦戦はしているが、全体の数字としては回復してきている。これまで同様に卒業後も各企業から情報を得ながら、毎月定期的に卒業生に向けた就職対策講座を実施することで全員就職決定するまでサポートを実施している。</p> <p>退学率では、開校以来、中途退学者0名を目指し、様々な取り組みの努力を重ね、年々学生満足度の高い運営が定着してきている。その主な要因としては2020年度より講師の先生方との講師会の頻度を増やし、学生の状況を共有することで問題点、課題点を早期に発見し、改善をすることができ、また必要な場合は保護者との連携を図ることで様々なフォロー体制が取れるようになってきた。また学生ひとり一人に対して学生の変化を出来るだけ早期に察知できるよう、授業に担任が定期的に参加することでケアが充実し、また個々の徹底したフォロー、カリキュラムの工夫、担任制度の強化、学生カウンセリングの強化等を実施。さらにSSCと連携を強化し、定期的に担任研修や講師会を実施。実際に問題を抱えている学生に対しての具体的な指導方針などをいろいろな事例から学び、それを実践している。これによって各スタッフの知識、スキルが向上している。ただし、学科コースごとでみていくと、まだまだ課題のある点もあるので、学生生活や進路に対してのサポート体制や学生のモチベーションを保てるようなイベント、運営などのイノベーションが継続して強化していく。</p> <p>これまで以上に学生満足度の高い運営を行うため、2021年度よりグループ全体でさらに強化する方針を掲げ、実行計画を組みなおし、教職員の研修、勉強会の頻度を増やし、全国各校の事例を水平展開しながらスタッフひとり一人の成長を図るべく今後も退学率0%達成に向け、グループ全体で努力を継続していく。在校生と卒業生のデビュー実績やコンテストへの入賞、商品化や参加作品などについては、担任との面談をはじめ、同窓会の開催や卒業生のネットワークを活用して把握に努めている。</p>	<p>教育成果の1つである就職は、年々、専門就職率が向上しているが、卒業時に100%を達成すべく、努力を続けている。また、できるだけ多くの学生に夢をかなえて就職するよう、就職対象者率の向上も大きな課題である。またデビュー希望者についても卒業時に全員所属を目標にとりくんでいるが、所属だけでなく業界内への就職なども視野にいれ、学生支援を行っている。卒業後のフォローとして卒業生を対象とした就職対策講座及び、デビュー系の卒業生には研究コースを立ち上げサポートを行っている。</p> <p>学生が目標を達成できるように、保護者と三位一体となり、支援する体制作りを実施している。</p> <p>退学率では、転科・転専攻等の個別カウンセリングの強化し現状以上に体制を整え、1人も退学者を出さない学校になるべく努力している。昨年同様、SSCとの連携を密にし、他校での事例検証など勉強会を定期的実施することで、スタッフのカウンセリング力強化を図る。今後は、最終目標である0%に向け、さらなる努力を重ねたい。</p> <p>2021年度よりグループ全体でさらなる学生満足度の学校運営を実現すべく、委員会を立ち上げ、事業計画、年間スケジュールを作成しこれまでよりも教職員、講師に向けた研修、勉強会の回数を増やししっかり実行し成果を出していく。</p>	<p>3</p>	<p>「何がしたいのか。なぜそう思うのか」学生さんは学びと就職活動に想像するよりもはるかに不安などの戦いがあるように思います。興味があり入学した時から不安が先にくる学生さんもおられると思いますが、授業に慣れてきて楽しく授業がなってくると成績も上がりいい環境になっています。中途退学が悪い時は世の中の不景気もあると思いますが、そのような状況下ではさらに学生さんひとり一人に寄り添う学校として必要性が大きくなってくると思います。</p>

<p>5 学生支援</p>	<p>5-23 就職に関する体制は整備されているか</p> <p>5-24 学生相談に関する体制は整備されているか</p> <p>5-25 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか</p> <p>5-26 学生の健康管理を担う組織体制はあるか</p> <p>5-27 課外活動に対する支援体制は整備されているか</p> <p>5-28 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか</p> <p>5-29 保護者と適切に連携しているか</p> <p>5-30 卒業生への支援体制はあるか</p>	<p>3</p>	<p>本校では、学生が目標を達成できるように、物心両面の環境を整備していくことで支援に繋がると考える。 しかし、支援はあくまでも支援である。例えば、健康の維持は学業目標達成には欠かせない事項であり、本校でも健康診断にとどまらず、多くの支援体制を築き上げているが、学生本人が健康管理についての自覚を持たない場合、支援は効果がない。 それゆえ、学生支援はまず学生の自立的行動を促すことから始めている。またキャリア教育・生涯教育の観点から卒業後の支援についても、継続している。</p> <p>学生支援には、①就職 ②学費 ③学生生活 ④健康 などの分野で行っているが、近年では入学してからの目的変更、進路変更希望者も増えているため、その対応を強化し、それぞれの分野で対応できる担当部署及び担当者を置いている。</p> <p>①就職については、専門部署であるキャリアセンターを設置し、担任との強い連携をとりながら、就職の相談、斡旋、面接他各種指導などの支援をしている。また、保護者会を開催するなど、随時、保護者とも連携し、必要な支援を実行している。 さらに2020年度からはオンライン、オンデマンドでの就職、デビューサポートシステムを全国の姉妹校のキャリアセンター、デビューセンターと連動しこれまで以上に求人・オーディション情報を共有、学生に発信できるシステムを構築している。</p> <p>②学費については、相談窓口として事務局に窓口を置き、提供できる学費面でのサービスをアドバイスするファイナンシャルアドバイザーにより支援している。</p> <p>③学生生活については、担任及び副担任制により行うが、それ以外にもSSC(スチューデント・サービス・センター)という悩みや相談を受ける専門部署を置き、支援している。</p> <p>④健康については、滋慶学園グループのクリニックである慶生会クリニック大阪が担当し、在学中の健康管理を支援している。</p> <p>⑤進路変更(目的変更)に関しては、目的意識、他分野への変更希望者に対しては、学内はもちろん、グループ校との連携をとり、学生ひとり一人のサポートを行うため進路変更委員会を設置している。 また、学生の課外活動であるサークル・同好会について、学校が年間予算を計上し、担当者を配置して、支援し、学生満足度アップに貢献している。 学生寮も学園の専用の寮を整備しており、寮長と担任とが連携して学生を支援している。</p>	<p>滋慶学園グループでは、「学生はゲスト」というコンセプトがあるが、本校でもこのコンセプト通り、学生を第一に考え、様々な支援体制を整備している。</p> <p>その中でも、「就職／所属」は学生が目標を達成し、業界で活躍するための最重要事項であり、本校では非常に力を入れており、キャリアセンター／デビュー事務局という専門部署を置き、専任のスタッフを配置している。</p> <p>キャリアセンターは、業界現場での実践研修である「業界研修」の指導から、個別相談、就職／デビュー対策講座、就職／デビュー支援イベント開催、就職／オーディション情報斡旋等々、就職に関するあらゆる支援を行っている。デビューを希望するには、デビューセンターのスタッフが作品添削会やデビューのチャンスを提供している。卒業後もCOMデビューバンクに登録し、卒業生のサポートも継続している。 また、全国にあるグループ校のキャリアセンター、デビューセンターとの定例会議を実施し、求人情報、オーディション情報を共有し、学生に発信し機会が増えている。 また、求人情報等を学生が自宅のパソコンや携帯でも閲覧できる就職支援システム「サクセスナビ」、自分のプロフィールを自由に更新し、プロダクションに売り込みができる「COMデビューバンク」、一斉メールなどシステムの構築しているが、2020年度からはグループ全体でさらにオンライン企業説明会、オンデマンド企業説明会を取り入れ、またオンデマンド教材として就職対策、オーディション対策講座などをいつでも確認できるようなシステムを構築し、さらに強化を行なっている。</p> <p>このような支援体制の結果、就職希望者は全員就職を達成している。「就職」と並ぶ重要項目である、「教育」については、教育環境を整備し、成果を上げている。 即戦力の人材を育成するための施設・設備、機材等々を完備し、また業界ニーズとブレのないカリキュラムの構築、業界第一線で活躍する講師陣による授業などを、業界と共に人材を育成できるような体制を確立している。また保護者を対象とした保護者会の実施し、必要に応じて保護者の方との連絡を密にとり、学生サポートを学校と保護者とでタッグと組み実施している。</p> <p>また、令和元年5月に通常国会で法成立し、令和2年4月より実施の高等教育修学支援新制度においてもすべての要件を満たし認定校となっている。</p>	<p>3</p>	<p>毎年先生方の学生さんに接する姿を見て、またこのような機会です学校の取り組みを伺い学生さんひとり一人に真摯に向き合っていると感じております。毎年状況も変わる中で大変かと思いますが、学生さんの学校に入った目的を達成できるように引き続きこちらもサポートしたいと思います。</p>
<p>6 教育環境</p>	<p>6-31 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか</p> <p>6-32 学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか</p> <p>6-33 防災に対する体制は整備されているか</p>	<p>3</p>	<p>本校は、業界で即戦力となり得る人材育成を目的としており、そのための教育環境(施設・設備、機材等)の整備は重要であるが、完備されていると考える。 職業実践を行うためにかなり教育環境の充実が図られ、それ以降も随時業界の変化に対応し、機材の導入、入れ替えなどを行っている。</p> <p>学内の教育環境に留まらず、学外の環境(インターンシップ・業界研修、学外演習、海外実学研修)も十二分に整備することが必要であるが、キャリアセンター、教務部、国際部が一丸となって、その整備を行い、教育効果に上げている。 特にコロナ渦のなか、安心、安全に對面での授業を行えるよう各教室への感染予防のための機材等の設置や改修を継続的に実施。 また学内外でのイベントの際も、コロナ感染予防対策マニュアルを作成し、それに基づいて対策を徹底して実施。 出来る限りの教育の質を保った教育環境を整えている。 海外研修が実施できなかったため、オンライン、オンデマンドでの海外講師による授業の充実を図っている。 防災訓練・避難訓練も計画的に実施しており、安全対策を日ごろから啓蒙している。 コロナ感染拡大防止の対策についても、エントランスの検温、各教室の換気設備やアルコールの設置、定期的な館内消毒作業、体調管理シートの徹底などを実施し、感染拡大防止の取り組みを行っている。</p>	<p>即戦力となる人材を業界とともに育成することをミッションとしている本校にとって、教育環境である施設・設備・機材等は非常に重要な要素であり、業界において最新・最良のものを整備している。</p> <p>毎年、事業計画で計画し、予算計上の上、計画通りに購入・更新等を行っていき、これ以外の学外教育環境も教務部、キャリアセンター、国際部が一丸となって整備しており、これは本校の大きな強みと考えている。インターンシップ、学外実習についても、一昨年より、キャリアセンター、教務部が中心となり、企業開拓の強化、連携の強化を図ってきた結果、業界研修制度や産学連携教育についての数も年々増え、学生の現場参加や、卒後の進路の選択肢も広がってきている。 安心した教育環境を保つため、危機管理マニュアルも作成し、それに基づいて安心・安全な環境を整えている。 また2021年度には耐震調査も実施した。</p>	<p>3</p>	<p>まさにプロが仕事をしている環境を整えておられ、学生さんが学ぶ環境としては最適な場所だと思います。</p> <p>コロナ渦での現場も中々調整に苦戦されているのは聞いておりましたが、少しずつですが、現場へのスタッフ制限なども戻ってきている分野もあるのでまたその辺りでご協力いたします。</p>

<p>7 学生の募集と受け入れ</p>	<p>7-34 学生募集活動は、適正に行われているか</p> <p>7-35 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか</p> <p>7-36 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか</p> <p>7-37 学納金は妥当なものとなっているか</p>	<p>3</p>	<p>本校は、大阪府専修学校各種学校連合会に加盟し、同会の定めたルールに基づいた募集開始時期、募集内容(AO 入学等)を遵守している。また過大な広告を一切廃し、必要な場合は根拠数字を記載するなど、適切な学校募集ができるように配慮している。</p> <p>さらに、広告倫理委員会を設置し、広報活動の適切さをチェックしている。広報・告知に関しては、各種媒体、入学案内、説明会への参加やホームページを活用して、学校告知を実施し、教育内容等を正しく知ってもらうように努めている。</p> <p>これらすべての広報活動等において収集した個人情報・出願・新入生の個人情報等本校に関わるものの個人情報は、校内に個人情報保護委員会を設置し、厳重に管理し、流出及び他目的に使用しないように、管理の徹底を図っている。</p> <p>入学選考に関しては、出願受付及び選考日を学生募集要項に明示し、決められた日程に実施しているが、入学選考後は、「入学選考会議」により、可否を決定する。</p> <p>なお、本校における入学選考は、学生募集要項にも明示している通り、「面接選考」及び「書類選考」であるが、その基準となるのは、「目的意識」である。将来目指す業界への職業意識や具体的な目標がしっかりしているかを確認すると共に、その目的が本校より提供する教育プログラム及びカリキュラムにおいて実現可能かを確認するもので、入学試験という名称のもと、学科試験を行うものではない。</p> <p>学納金や預かり金、教材等の見直しを毎年行っており、学費及び諸経費の無駄な支出をチェックしている。</p> <p>保護者への授業料及び諸経費の提示についても、入学前の段階において、年間必要額を学生募集要項に明記し、基本的に期中で追加徴収を行わない。</p>	<p>学生募集については、募集開始時期、募集内容等ルールを遵守し、また、過大な広告を一切排除し、厳正な学生募集に配慮している。広報活動では「学校の特色を理解してもらう」ことを強化している。本校は専門就職またデビューを果たしてもらうことを第一目標としているため、入学前に職業イメージがどれだけ明確になっているかが大切と考え、体験入学や説明会への複数回参加を促し、充分理解し、疑問を解消した上で出願してもらうことを心がけている。</p> <p>教育成果として、高い専門就職実績と卒業生の活躍の打ち出し、必要に応じてより具体的に卒業生の在学中から活躍するに至るまでの成功事例を用いて説明をすることで、より明確に業界就職までの流れを伝えることで、学生募集上の効果はかなり高いと考えるが、それゆえ、過大な広告にならないよう、学内に広告倫理委員会を設置し、事務局長、広報スタッフ等が常にチェックしている。</p> <p>本校は、一般社団法人日本プライバシー認証機構「TRUSTe」の国際規程の認証を受けている。</p>	<p>3</p>	<p>毎年広報・教務の先生、就職の先生方が質の高い教育を提供できるようにご尽力され、卒業生の活躍などもあり、このような状況でも毎年学生募集に取り組んでおられていると思います。</p>
<p>8 財務</p>	<p>8-38 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか</p> <p>8-39 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか</p> <p>8-40 財務について会計監査が適正に行われているか</p> <p>8-41 財務情報公開の体制整備はできているか</p>	<p>3</p>	<p>財務は、学校運営に関して、重要な要素の1つである。その中で予算(収支計画)は学校運営に不可欠なものであって、その予算を正確かつ実現可能なものとして作成する必要がある。</p> <p>毎年、次年度事業計画を作成し、その事業計画の中に5ヶ年の収支予算を立てているが、次年度の収支予算はもちろんのこと、中長期的に予算を立てることによって、学校の財務基盤を安定させるための計画を事前に組んでおくのが目的である。</p> <p>5ヶ年の予算は、5ヶ年を見越した中長期的事業計画内で、新学科構想、設備支出等について計画し、将来の学生数、広報・就職計画を鑑みながら予測し、収支計画を作成するが、学校、学園本部、理事会・評議員会と複数の目でチェックするため、より現実に即した予算編成となっており、健全な学校運営ができていると考えている。</p> <p>会計監査は、法人及び学校の利害関係者に対して、法人等の正確かつ信頼できる情報を提供するために、第三者による監査人が法人とは独立し計算書類が適切かどうかを監査することを意味する。</p> <p>平成17年4月から私立学校法が改正され、学校法人の財務情報公開が義務づけられたが、これに迅速に取り組み、「財務情報公開規程」及び情報公開マニュアルを作成し、現在ではしっかり情報公開を行っている。</p>	<p>予算を正確かつ実現可能なものにするための2つの要素がある。</p> <p>①正確かつ実現可能な予算の作成 予算は短期的、中長期的の2種類がある。短期的は次期1年間のもの、中長期的は2～5年間のものである。 当学校法人及び学校では、短期的と中長期的の両方を事業計画書として作成し、短期的視野と中長期的視野の2つの観点から予算編成している。短期的な予算編成は当年度の実績を基礎に次年度に予定している業務計画を加味して行われる。 中長期的な予算編成は主として大規模な計画を視野に入れた上で、業界の情勢を読み取りながら行われる。 正確かつ実現可能な予算作成のためには、一旦作成した予算が現実のものとならなければそれを修正する必要がある。そのために短期的な予算においては期中に「修正予算」を組み、中長期的な予算においては毎年編成しなおすことにしている。 これにより、短期的にも中長期的にも正確かつ実現可能な予算編成を組むことができる。</p> <p>②①のための体制作り ①のように実現可能な予算作成するためには、その体制作りが必要になる。 事業計画・予算は学校責任者が協議して作成し、滋慶学園本部がチェックし、修正して最終的に理事会・評議員会が承認する体制を整えている。</p> <p>さらに、予算に基づいて学校運営がなされているかどうかは四半期ごとに予算実績対比を出し、学校責任者と学園本部が協議し予算と実績が乖離しているようであれば修正予算を編成し、理事会・評議員会の承認を得る。作成した決算書、事業報告書については、情報公開の対象となり、利害関係者の閲覧に供することとなる。</p>	<p>3</p>	

9 法令等の遵守	9-42 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	3	法令を遵守するという考えは、滋慶学園グループ全体の方針として掲げ、各校の教職員全員でその方針を理解し、実行に努めている。 法人理事会のもとに、コンプライアンス委員会で学校運営が適切かどうかを判断している。 現状では、学校運営(学科運営)が適切かどうかはつぎの各調査等においてチェックできるようにしている。 ①学校法人調査 ②自己点検・自己評価 ③学校基礎調査 ④専修学校各種学校調査 等である。	3 つの教育「実学教育」、「人間教育」、「国際教育」で「職業人教育を通じて社会に貢献する」という建学の理念の実現を目指し、4つの信頼(「学生・保護者からの信頼」、「高等学校からの信頼」、「業界からの信頼」、「地域からの信頼」)を確保するためにもコンプライアンス推進をはかる。 具体的には、すべての法令を遵守するとともに、社会規範を尊重し、高い倫理観に基づき、社会人としての良識に従い、行動することが私たちの重要な社会的使命と認識し、実践する。	3	
	9-43 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか		また、組織体制強化やシステム構築にも努め、次のようなものがある。 (A)組織体制 ①財務情報公開体制(学校法人) ②個人情報管理体制(滋慶学園グループ) ③広告倫理委員会(滋慶学園グループ) ④進路変更委員会(滋慶学園グループ) (B)システム(管理システム) ①個人情報管理システム(滋慶学園グループ) ②建物安全管理システム(滋慶学園グループ) ③防災管理士システム(滋慶学園グループ) ④部品購入棚卸システム(滋慶学園グループ) ⑤コンピュータ管理システム(COMグループ)	方針実行のため、学内にコンプライアンス委員会を設置し、コンプライアンスを確実に実践・推進に当たらせている。 委員長は、統括責任者としての学校の役員が就任する。委員は学校の現場責任者である事務局長と実務責任者の教務部長で構成される。 主な任務は、行動規範・コンプライアンス規程の作成、コンプライアンスに関する教育・研修の実施、コンプライアンス抵触事案への対応及び再発防止の検討・実施、コンプライアンスの周知徹底のためのPR、啓蒙文書等の作成・配布である。		
	9-44 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか		滋慶学園グループ、COMグループと全体というスケールメリットを活かし、各委員会、体制、システムにより、各校が常に健な学校(学科)運営ができるようにしている。 法令や設置基準の遵守に対する方針は明文化し、法令や設置基準の遵守に対応する体制作りは完全に整備できている。 また、自己点検・自己評価の結果についてもホームページにて公開を実施している。	監事による毎年の監査に際して、業務監査の対象として、コンプライアンスの実施状況についても監査を受けている。 学校という現場において、特に個人情報の取り扱いには細心の注意が必要なため、個人情報保護に関する研修を毎年受講し、各スタッフの個人情報保護への意識の向上を図っている。その中でも特に不要な個人情報は削除すること、また普段使うことの少ないものに関しては業務委託し、管理をしっかり行いリスクを少しでもなくす取り組みを実施している。 また、毎年自己点検・自己評価を実施し、問題の改善に取り組み、また学校関係者評価委員会などで指摘いただいた点についても改善を図っている。 そして自己点検・自己評価についてはHPIにて公開している。		
	9-45 自己点検・自己評価結果を公開しているか					
10 社会貢献	10-46 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	3	本校には、滋慶学園グループの「4つの信頼」(①業界からの信頼 ②高等学校からの信頼 ③学生・保護者からの信頼 ④地域からの信頼)というコンセプトがある。  この「4つの信頼」の獲得を目指すことが社会貢献に繋がると考えている。 例えば、業界企業や団体、あるいは中学校・高等学校等の教育機関とタイアップして行う、出張授業支援やクラブ活動支援、また、スタッフが高校へ出向いて行う特別講義等では、「高等学校からの信頼」に繋がっている。  滋慶学園グループが推進する「地球温暖化防止対策」運動で行っている、節電、冷房温度28度設定、階段利用(2アップ3ダウン)や、イベント等におけるゴミ削減、資源有効利用等々は、学生本人のみならず、来校された保護者の方々からも高い評価を頂戴し、「学生・保護者からの信頼」に繋がっている。  ボランティア活動についても奨励しており、学生便覧にも規定している。  特別なことをするわけではなく、滋慶学園グループが掲げる「4つの信頼」の獲得を目指すことが、すなわち社会貢献を果たすことに繋がっていると考えている。	本校では、教職員及び学生たちが、常に社会貢献を意識した活動を行っている。例えば、①大阪府・市からの企業プロジェクト ②チャリティーコンサート③業界企業とタイアップして行う全国企業プロジェクト ④中学校や高等学校での職業理解支援等々、年間を通じ、教職員や各専攻の学生たちが、それぞれ特徴を活かし、幅広く、かつ意義のある活動を行っている。  その活動が、「業界からの信頼」、「地域からの信頼」、「高等学校からの信頼」、「学生・保護者からの信頼」という、滋慶学園グループの「4つの信頼」獲得に繋がりに、その結果が社会貢献を果たすことに繋がっている。  中学校や高等学校などの教育機関での授業サポートが増え、特に職業教育の一環として出前体験授業を多く実施するなどより一層地域に密着してきた。 また、社会貢献事業として長年実施している骨髄移植推進キャンペーンミュージカル『Hospital of Miracle』においては、2020年度はコロナ渦での実施が厳しく、公演は中止となったが、2021年度は収容人数を定員の50%に制限し、ガイドラインに沿って有観客で実施。徹底した感染防止対策で感染者を出すこともなく多くの方々にご覧いただくことができた。 また今年も大阪府庁や大阪府警などとタイアップし、映像制作、デザイン制作などを一緒に行うなどを行っている。 今後も地域の企業、行政、教育機関と連携し学生が学んでいるエンターテイメントを通じて地域貢献できる内容を検討し実行していきたい。	3	学生の時からあの規模の社会貢献ミュージカルに取り組み、エンターテイメントで社会貢献を意識し、どのようなことができるのかということを実体験できる機会があることは今後の人勢においても貴重な場だと思えます。  学生さんの熱意に毎年感動させられています。もちろん内容についてもテーマが明確ですべてを学生さんだけでやっていることを感じられないぐらいのクオリティで若い力の凄さを感じております。
	10-47 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか					